

2024年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2024年2月13日

上場会社名 株式会社ヒガシマル 上場取引所 福
コード番号 2058 URL https://www.k-higashimaru.co.jp/
代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 東 勤
問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役管理部部長 (氏名) 松久保 稔 (TEL) 099-273-3859
四半期報告書提出予定日 2024年2月13日 配当支払開始予定日 —
四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2024年3月期第3四半期の連結業績(2023年4月1日~2023年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(％表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年3月期第3四半期	10,183	10.1	145	207.8	179	4.5	41	△56.9
2023年3月期第3四半期	9,245	3.1	47	△85.4	171	△59.4	95	△59.3

(注) 包括利益 2024年3月期第3四半期 193百万円(22.9%) 2023年3月期第3四半期 157百万円(△34.0%)

	1株当たり 四半期純利益		潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益	
	円	銭	円	銭
2024年3月期第3四半期	10.47	—	—	—
2023年3月期第3四半期	24.39	—	—	—

(2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年3月期第3四半期	16,150	33.3	5,383	33.3	—	—
2023年3月期	14,367	36.3	5,216	36.3	—	—

(参考) 自己資本 2024年3月期第3四半期 5,383百万円 2023年3月期 5,216百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
2023年3月期	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2024年3月期	—	0.00	—	9.00	9.00
2024年3月期(予想)	—	0.00	—	9.00	9.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2024年3月期の連結業績予想(2023年4月1日~2024年3月31日)

(％表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円	銭
通期	12,935	10.3	13	—	66	△33.0	18	—	4.65	—

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)
新規 一社(社名) 、除外 一社(社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	2024年3月期3Q	4,746,000株	2023年3月期	4,746,000株
② 期末自己株式数	2024年3月期3Q	799,823株	2023年3月期	809,823株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	2024年3月期3Q	3,942,140株	2023年3月期3Q	3,928,905株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

- ・本資料に記載されている業績予想につきましては、現時点で入手可能な情報に基づき判断したものであり、実際の業績は今後の様々な要因により予想数値と異なる可能性があります。なお、上記予想に関する事項は、四半期決算短信[添付資料]3ページ、「(3) 連結業績予想などの将来予想情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報等)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当期の連結業績の概況

当第3四半期連結累計期間におけるわが国の経済は、個人消費やインバウンド需要が回復することで経済活動の正常化が進み、緩やかな景気の回復基調は継続しました。一方で、ウクライナ情勢の長期化や中東情勢の緊迫化、日米の金利格差による円安、中国による日本産水産物の輸入規制、原材料費やエネルギー等の価格高騰など、国内外の先行き不透明な状況も依然として続いております。

このような状況の下、当社グループの事業環境におきましては、個人消費や外食需要、インバウンド需要の回復基調の影響や販売価格の改定効果などにより売上を伸ばすことができた反面、世界情勢に起因する、主要原材料、燃料費、輸送費及び資材費などの価格高騰の影響は継続しており、コスト増による収益圧迫が今後も予想されるため、コストカットや積極的な営業活動、販売価格の見直しなどの対応を推進してまいりました。

その結果、当第3四半期連結累計期間の業績は売上高101億83百万円（前年同四半期比10.1%増）、営業利益1億45百万円（前年同四半期比207.8%増）、経常利益1億79百万円（前年同四半期比4.5%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益41百万円（前年同四半期比56.9%減）となりました。

セグメント別の経営成績は次のとおりです。

①水産事業

水産事業におきましては、外食向け業務用関連商材の需要は上昇傾向にあるものの、物価高の影響で量販店の販売状況は不調となっています。養殖業者においては、生産コストの増加で経営が逼迫し、給餌不足による成長不良等が起きている魚種や産地もある状況です。また、養魚用配合飼料の主要原材料の価格や燃料費、資材費、輸送費といった生産に係るコストは依然高い状況が継続しています。業界動向を注視しながらコストダウンと利益確保を模索する状況で推移しました。

エビ飼料類は、海外で市場価格の下落や病気の発生などの影響で養殖生産量が減少したことで輸出販売数量も減少しましたが、国内では養殖業者での育成状態が良好だったことや既存客先での当社シェア率アップなどがあり、前年同期を上回りました。ハマチ飼料類は、在池尾数過多により全国的な鮮魚相場が下落したことで生産コストの上昇分を価格に反映しきれない産地があったことや天然ブリの豊漁などの影響で出荷の動きが鈍くなり、ハマチ2歳魚の在池尾数が多かったことから飼料の販売が順調に進み、前年同期を上回りました。ヒラメ飼料類は、販売先別の特注品対応や新規顧客との取引開始などがあったことから、前年同期を上回りました。マダイ飼料類は、価格改定前の買い込みがあった前年同期に比べて販売数量は減りましたが、既存顧客でのシェア率上昇などがあり、前年同期を上回りました。

魚類種苗生産事業は、養殖業者向けは出荷時期のズレや魚種転換の影響で減少したものの、放流事業向けと成魚販売が増加したことにより、前年同期を上回りました。鮮魚販売事業は、外食等業務用向けの販売は増加傾向にありますが、量販店向けの販売が大きく減少しており、前年同期を下回りました。クルマエビ養殖事業は、養殖池での育成状態が改善されたことで出荷数量が増加し、販売単価も上昇したことから、前年同期を上回りました。魚類養殖事業は、夏場の制限給餌の影響でスギ1尾当たりの魚体重が前年同時期よりも小さく、販売重量が減少したことから、前年同期を下回りました。

その結果、当事業の売上高は59億77百万円（前年同四半期比10.7%増）、セグメント利益は4億34百万円（前年同期比43.1%増）となりました。

②食品事業

食品事業におきましては、人出や物流が回復傾向にあり、量販店や外食産業の行楽シーズン及び年末需要はコロナ禍前の状況に戻つつありました。一方で不安定な世界情勢や円安の影響で、原料費や資材費、エネルギー関連商材の価格動向の不透明感は続いております。

乾麺・即席麺類につきましては、2023年に価格改定を実施しましたが、主原料の小麦粉やパーム油、資材の価格、輸送費等は依然高止まりしている状況にあることから、生産・販売コストは上昇しており、利益の確保が難しい状況で推移しました。

即席麺類は、インバウンド需要の回復傾向を受けてPB商品の販売が増加し、自社商品は既存商品の販売増加とアニマルフリー商品の新規販売ができたことから、前年同期を上回りました。乾麺類（うどん・そうめん等）

は、規格変更により前年並みで推移した商品があった一方、価格改定の影響を受けて自社商品・PB商品ともに販売数量が減少し、前年同期を下回りました。皿うどん類は、PB商品の販売は増加しましたが、自社商品の販売数量が減少し、前年同期を下回りました。ラーメン類は、海外向けPB商品の受注が増加し、自社商品の販売増加もあったことで、前年同期を上回りました。

カレールー・シチュールー類は、価格改定と猛暑の影響で販売数量が減少していましたが、気温の低下とともに売上が回復し、企画商品のスポット導入や販売が好調なグルテンフリー商品の新規導入などもあり、前年同期を上回りました。穀粉類は、新規企画の採用などで既存顧客への販売増加はありましたが、原料事情の影響で販売が減少した商品があり、前年同期を下回りました。かき揚げ類は、新規企画の採用や、行楽シーズンや年末需要向けの外食関連得意先への販売が増加し、前年同期を上回りました。

その結果、当事業の売上高は42億5百万円（前年同四半期比9.4%増）、セグメント損失は34百万円（前年同期はセグメント利益55百万円）となりました。

（2）財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末と比べ17億82百万円増加し、161億50百万円となりました。これは、主として現金及び預金が3億64百万円増加、受取手形及び売掛金が14億66百万円増加したことなどによるものです。

負債は、前連結会計年度末と比べ16億15百万円増加し107億67百万円となりました。これは、主として買掛金が5億42百万円増加、短期借入金が2億83百万円増加、長期借入金が3億95百万円増加ことによるものです。

純資産は、前連結会計年度末と比べ1億67百万円増加し53億83百万円となりました。これは、主として利益剰余金が5百万円増加、その他有価証券評価差額金が1億52百万円増加したことなどによるものです。

（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当社グループの売上高は、通常第1四半期連結会計期間より第2四半期連結会計期間及び第3四半期連結会計期間の割合が高くなる季節的特徴があります。

2024年3月期の連結業績予想につきましては、2023年11月13日に公表しました「2024年3月期第2四半期決算短信」における業績予想から変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2023年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,310	1,675
受取手形及び売掛金	1,687	3,153
商品及び製品	752	732
仕掛品	419	488
原材料及び貯蔵品	1,917	1,926
その他	425	209
貸倒引当金	△11	△21
流動資産合計	6,501	8,165
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	2,498	2,348
土地	2,222	2,222
その他（純額）	1,715	1,695
有形固定資産合計	6,436	6,266
無形固定資産		
のれん	66	52
その他	20	31
無形固定資産合計	87	84
投資その他の資産		
投資その他の資産	1,381	1,672
貸倒引当金	△39	△38
投資その他の資産合計	1,342	1,633
固定資産合計	7,866	7,985
資産合計	14,367	16,150

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2023年12月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	736	1,279
短期借入金	3,731	4,014
未払法人税等	44	98
賞与引当金	164	83
その他	640	1,046
流動負債合計	5,317	6,522
固定負債		
長期借入金	2,179	2,575
役員退職慰労引当金	-	16
退職給付に係る負債	101	112
その他	1,553	1,540
固定負債合計	3,834	4,244
負債合計	9,151	10,767
純資産の部		
株主資本		
資本金	603	603
資本剰余金	433	431
利益剰余金	4,814	4,820
自己株式	△886	△875
株主資本合計	4,965	4,980
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	250	403
その他の包括利益累計額合計	250	403
純資産合計	5,216	5,383
負債純資産合計	14,367	16,150

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)
売上高	9,245	10,183
売上原価	7,500	8,317
売上総利益	1,744	1,866
販売費及び一般管理費		
運賃諸掛	415	436
貸倒引当金繰入額	3	9
給料及び賞与	446	427
賞与引当金繰入額	35	29
退職給付費用	16	23
役員退職慰労引当金繰入額	-	16
その他	780	777
販売費及び一般管理費合計	1,697	1,720
営業利益	47	145
営業外収益		
受取利息	4	4
受取配当金	10	13
為替差益	46	5
デリバティブ評価益	18	19
雑収入	61	47
営業外収益合計	141	89
営業外費用		
支払利息	16	28
支払補償費	-	27
雑損失	0	0
営業外費用合計	16	55
経常利益	171	179
特別利益		
受取和解金	55	-
特別利益合計	55	-
税金等調整前四半期純利益	226	179
法人税、住民税及び事業税	105	142
法人税等調整額	25	△4
法人税等合計	130	138
四半期純利益	95	41
非支配株主に帰属する四半期純利益	-	-
親会社株主に帰属する四半期純利益	95	41

四半期連結包括利益計算書
第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)
四半期純利益	95	41
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	61	152
その他の包括利益合計	61	152
四半期包括利益	157	193
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	157	193
非支配株主に係る四半期包括利益	-	-

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:百万円)

	報告セグメント		合計	調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	水産事業	食品事業			
売上高					
水産飼料類	3,875	—	3,875	—	3,875
養殖魚類	1,526	—	1,526	—	1,526
乾麺・即席麺類	—	1,606	1,606	—	1,606
カレールー・シチュールー類	—	1,227	1,227	—	1,227
穀粉類	—	582	582	—	582
かき揚げ類	—	426	426	—	426
顧客との契約から生じる収益	5,401	3,843	9,245	—	9,245
外部顧客への売上高	5,401	3,843	9,245	—	9,245
セグメント利益	303	55	359	△187	171

(注) 1 セグメント利益の調整額△187百万円は、各報告セグメントに帰属しない全社費用等であり、提出会社の管理部門に係る販売費及び一般管理費233百万円、営業外収益59百万円、営業外費用14百万円であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の経常利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第3四半期連結累計期間(自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:百万円)

	報告セグメント		合計	調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	水産事業	食品事業			
売上高					
水産飼料類	4,524	—	4,524	—	4,524
養殖魚類	1,453	—	1,453	—	1,453
乾麺・即席麺類	—	1,872	1,872	—	1,872
カレールー・シチュールー類	—	1,253	1,253	—	1,253
穀粉類	—	573	573	—	573
かき揚げ類	—	506	506	—	506
顧客との契約から生じる収益	5,977	4,205	10,183	—	10,183
外部顧客への売上高	5,977	4,205	10,183	—	10,183
セグメント利益又は損失(△)	434	△34	399	△220	179

(注) 1 セグメント利益の調整額△220百万円は、各報告セグメントに帰属しない全社費用等であり、提出会社の管理部門に係る販売費及び一般管理費232百万円、営業外収益26百万円、営業外費用14百万円であります。

2 セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の経常利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。